

< 寄稿 >

イスノキの虫こぶが浜へ漂着

A gall of *Distylium racemosum* washed ashore at a beach

久保田 信 (Shin Kubota) (和歌山県)

(京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所)

京都大学瀬戸臨海実験所周辺海岸では様々な植物性の漂着物の記録がなされているが (久保田 2015 の引用文献を参照), 2015 年 4 月 5 日, 実験所の“北浜”に 1 個の堅くて不思議な“種”が流れ着いた。大きさは, 長さが 33 mm で, 最大幅は 20 mm であった (図 1)。

即座に, 20 年ほどの間でここへ初めて流れ着いた植物の果実と思えた。しかし, その正体はなかなか判明できなかった。漂着物に関する様々な書物など (久保田 2015 の引用文献を参照) を見ても, そのような形状の種か果実は全く見当たらなかったからである。

自身での鑑定をあきらめ, 植物の漂着果実などに詳しく, いつもお世話になっている中西弘樹先生に御伺いした。すると, いとも簡単に, 「イスノキ *Distylium racemosum* の虫こぶであり, それほど珍しいものでない」と知らせて下さった。ということで, 外国産のものなのか等とまで思ったりもしたもののだが, 謎だったものの正体がやっと知れて安堵できた。植物学者の中西先生にとっては御馴染みなのであるが, 門外漢にとってはお決まりだが, 的外れの想いを巡らせるばかりであったので, このような例も他にも多々あるのではないかと思います, ここに報告をしておきたい。

このような例は, 今にしてみれば, 以前にも似たような経験をしている。一言で言うならば, 海産貝類図鑑をかたっぱしからめくってみてもその分類学的位置がさっぱり分か

らなかった外来種の巻貝で, 水稻に害を及ぼすスクミリンゴガイが懐かしく思い当たる。この場合は動物だったので, なんとか解決はできた (久保田 1999)。

イスノキは, 世界では関東以西から琉球列島にかけてのみ分布するユキノシタ目マンサク科に属する常緑高木で, 高さ約 20 m もの太木になるという。昆虫の寄生によって丸く大きく膨らんだ虫こぶ (ひよんの実と呼ばれる) が形成される。この虫こぶが大きく成長すると, 表面は硬いが内部は空洞となるという。面白いことに, ヒョンあるいはヒョ

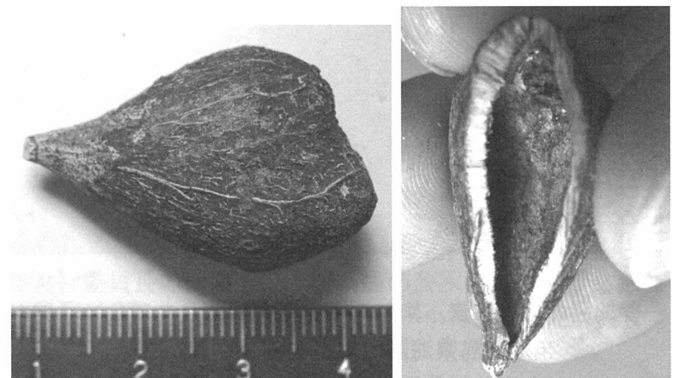


図 1. 京都大学瀬戸臨海実験所“北浜”に 2015 年に初漂着したイスノキの虫こぶ
図 2. 内部が空洞の図 1 で示した虫こぶ

ウと鳴るらしいので、ヒョンノキとも呼ばれる。

今回の虫こぶはとても硬く、カッターなどでの切断ができなかったので、万力で挟んで金切ノコを使用してやっと一部を切断した。すると、確かに中は空洞になっていた (図 2)。

皆様はこのような虫こぶの漂着や実際に野外で木にできているのを見たことがありますか？

引用文献

久保田 信 . 1999. 和歌山県白浜町番所崎に漂着したスクミリンゴガイ (腹足類, リンゴガイ科). 南紀生物, 41(2): 114..

久保田 信 . 2015. 和歌山県白浜町に所在する京都大学瀬戸臨海実験所 “北浜” に初めて漂着したニッパヤシの果実. どんぶらこ, (52): in press.